

## 「労山ちば」2006年度(第40期)の活動方針

県連はこれまでの活動の積み重ねの上に立ち、従来からの活動をいっそう強化・充実し新たな前進をはかるため、40期の重点として次の5点に取り組みます。

### (1) 登山・ハイキングを活発にし、交流をはかり質の向上をはかるために

山岳団体として登山・ハイキング活動を活発に行うことは最大の課題です。多様で活発な山行・ハイキングを促進し、情報の交換、会員の交流の場を設定します。登山交流集会を中心に、質の向上のための教育活動の充実、経験交流をすすめます。

また、今年度はハイキング分野の交流、関東・全国参加に積極的に係わりながら、千葉の山でのハイキング交流も進めます。

### (2) 事故の防止と救助隊の充実をはかるために

多発している事故原因について検討を深め、教訓を学び、各会での遭難活動の体制を確立するとともに、県連との連絡体制をより強化し救助隊の実技講習、実践訓練充実をはかります。また、会員の確実な技術習得のための教育活動をすすめ、(講習会の充実)さらにヒヤリ・ハットを持ち寄り会員に伝えていきたい。

### (3) さらに多様で豊かな県連行事の実施にむけて

1985年よりの「ふれあいハイキング」も県連盟の主催から各地域で開催される行事に移行しています。前年は千葉市を中心とした地域で自然指向の中で障害をもっている多くの方々が地域ボランティアの協力でハイキングを楽しみました。

2年ごとのふれあいハイキングも各会の地域ボランティアに移行し豊かなものにして行きましょう。

さらに、清掃ハイキング(自然保護活動)や房総ロングハイキングへの県民参加拡大を視野にいれ、県連行事の実施にむけて、何が大切なことなのか、今後どのようにするのか、どの様に登るのか、大いに議論し多くのアイデアを頂きたいと考えています。

### (4) 登山学校の再開とさらなる教育機関の発展を

登山学校の再開となる道筋を、今年度は登山セミナーなどの講習会を開催しながら教育遭難対策委員会の中で進めます。

前年度の講習会での参加者からは、登山技術の講習会や多様なセミナー開催要望が強かった。このことから、今後益々学ぼうとする学習意欲は大きくなると考えている。講師陣の再登録を具体的な核として多様な講習を組み立て登山学校の具体的な再開を進めたい。

### (5) 事務局体制の強化と連絡体制の確立

事務局の人員強化と各委員会、理事、HP担当者、県連機関誌担当者の連絡強化をはかり、理事会において具体的な人選に取り組む。